

様式 2

県立高等学校重点校制度に係る成果報告書

学校名 鳥取西高等学校

重点項目	グローバル人材育成重点校	提出日	令和5年3月31日
------	--------------	-----	-----------

1 学校目標	
「深い学び」「幅広い学び」を通じて新時代を創造するリーダーの育成を図る。	
2 重点項目に係る目標・成果	
目標	成果
<p>○学問の奥深さに触れ、深く学ぶことの喜びを実感できる授業を研究・実践する。</p> <p>○「グローバル人材育成重点校」として、グローバルリーダーに必要な資質を養成する。</p> <p><数値目標></p> <p>○海外研修・留学等に参加した生徒数35名</p> <p>○各種研究大会・学会や大会等への参加数250名、上位入賞者60名以上</p> <p>○卒業時における生徒の4技能の総合的な英語力としてCEFRのB1～B2レベルの生徒の割合30%</p> <p>○生徒がSSH事業全体において、「グローバルで多文化的な課題を、批判的に多様な視点から分析する力」が向上したと答えた生徒が70%</p>	<p>○「課題研究」や海外研修オンラインプログラムや海外の大学・高校との交流・連携によって生徒の論理的・協同的・探究的思考力、コミュニケーション能力が高まった。</p> <p>○各種大会、科学オリンピック等に幅広く参加し、世界大会出場など優秀な成績を収めた。活動の成果発表（英語等）により、多くの生徒が刺激を受け意欲の向上が見られた。</p> <p><数値結果></p> <p>○海外研修（オンラインプログラム）・留学等に参加した生徒数18名（内1名はアメリカ短期留学、1名はカナダ長期留学）</p> <p>○各種研究大会・学会や大会等への参加数258名、上位入賞者53名。</p> <p>○卒業時における生徒の4技能の総合的な英語力としてCEFRのB1～B2レベルの生徒の割合69%</p> <p>○生徒がSSH事業全体において、「グローバルで多文化的な課題を、批判的に多様な視点から分析する力」が向上したと答えた生徒が70.3%</p>
3 実施事業	
<p>【高等学校課事業】</p> <p>○「新しい学びの創造事業」に係る生徒の思考力・判断力・表現力の強化のためのハイレベル講座 Learning & Using English in the 21th Century:Why & How? というテーマでのペアワーク、双方向でのやりとりを含む講義。37名の希望生徒が参加し、熱心に受講した。国際化、グローバル化への関心を持つ生徒が多い本校において、英語学習意欲を喚起する貴重な講義となった。 講師：和泉伸一氏（上智大学教授）</p> <p>○学校連携チャレンジ・サポート事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「英語ディベート活動に関する研究会」 スピーキングやディベート指導に力のある講師に模擬授業をしていただくとともに、研究会では授業実践の具体や生徒の言語活動場面を紹介していただいた。ICT利用、新学習指導要領と合致した言語活動等、今後の英語教育を見据えた充実した内容となった。 講師：岩崎美佳氏（京都市立塔南高等学校教諭） ・海外オンライン研修プログラム 	

ハワイと地元地域（若桜町）という2つの視点を同時に比較しながら、専門家の指導の下、内容を深く掘り下げることで多様な価値観や考え方を学ぶことができた。また、ハワイの講師と常時英語でやりとりをすることに加え、指導教員として県内高校ALTに3日間サポートしてもらったことで、英語でのコミュニケーションスキルをつける良い機会となった。

【独自事業】

①著者と語る講演会

アンドロイド研究の第一人者として日本のみならず、グローバルに活躍する著名講師を招き、講演会、質問・討論会を通して日本はもとより世界で活躍できるビジョンや資質・能力について学んだ。

講師：石黒浩氏（大阪大学教授）

②ESDによる課題研究活動の推進

グローバルリーダー育成のために、授業等におけるディベートやスピーキング活動等で身につけた英語運用能力で、ESDをテーマにした研究会等での発表の機会を持った。また、地域のESD資源を巡ることによって、グローバルに持続可能性を追及する生徒の資質・能力を育成した。

③グローバル探究学習

グローバル課題の解決に向けて、グローバル探究学習を通して学んだ成果を、全国規模の学会、大会等で発表した。他校の生徒と切磋琢磨することで、持続可能な社会作りの実現を目指す姿勢を涵養するとともに、グローバル人材としての資質を高めた。

4 総合所見（成果・評価）

- ・新型コロナウイルス感染症拡大のため、海外研修や留学に関心の高い生徒も断念せざるを得ない状況となり、海外研修・留学に参加した生徒数は目標値に届かなかったが、代替となるオンライン研修を実施したり研修場所を国内に変更するなど、実施可能な形態で事業を行った。その結果、ESDやSDGs等の視点による探究的な学びにより、生徒のグローバルな視点によるローカルな活動に挑戦する意欲が向上するなど、新型コロナウイルスの影響を最小限に食い止め、事業においてグローバルな課題を分析する力が向上したと考える生徒割合は、ほぼ目標値を達成した。令和5年度は、新型コロナウイルス感染症の5類移行にともない、海外研修や海外派遣事業が実施できる見込みである。用意周到に計画を立てることで生徒の意欲や充実感を高め、校内生徒へ還元する方法の充実を図り、グローバルな視点を持つ生徒を育成した。
- ・新型コロナウイルス感染症の拡大により多くの研究会などがオンライン実施となった。しかしながら、全国的な研究大会に参加する生徒数は減少せず、公益性の高い各種研究会・学会や大会に参加した生徒は258名を数えた。また大会で大変優秀な成績を収める生徒が増加し、53人の生徒が上位入賞を果たした。当初の目標は達成できたと考える。
- ・ハワイとオンラインでつないだプログラムを実施し、他校にも参加を呼びかけた。米子東高、倉吉東高、青翔開智高からの参加者も得、合計22人参加。サイエンスを通じた生徒の研究交流や、教員間でのプログラム運営情報共有の場ともなった。

※枚数任意